

週刊金融財政事情 2018年3月19日号

評者：東京大学大学院

教授 柳川範之先生

書架



『お金をかけない
事業承継』著
柳川範之 刊
同友館 1,800円+税

多くの中小企業経営者にとって、事業承継をいかにスムーズに行うかは悩みの種だろう。特に経営者の高齢化が進む現状では、事業承継は単に個々の経営者にとつての問題にとどまらず、経済全体にとつての大きな課題でもある。しかし、事業承継の実態を理解したうえで有効な解決策を提示するには、実務の経験がないとむずかしい。

著者は大手電機メーカーに勤務するも、父親の急死をきっかけに建設会社の社長職の引受けと引渡しを経験。その後、神戸大学でMBAを取得し、嘉悦大学大学院の博士課程を61歳で修了した経歴の持ち主だ。その実体験に基づいて、事業承継と個人保証の関連をリアルに語るとともに、それらに対する学術的な整理も試みている。

個人保証のあり方は長年議論されてきた課題で、法改正も行

われたが、特に中小企業の経営者にとって依然として大きな意味を持つていることは間違いないだろう。とりわけ事業承継の局面では、個人保証の存在がスムーズな承継をむずかしくする場面が少なくない。その点について本書は、後継者に個人保証を継がせる方策を提案する。

ただし、単に個人保証を継がせればよいというわけではない。ポイントには、むしろ個人保証を継がせられる、あるいは継いでよいと考えられる後継者を育成し、企業体質の強化を図るという点にある。中小企業の経営者が本気で後継者を確保したいと思ふなら、連帯保証人を受け入れられる人物を育てるべしという興味深い主張だ。

また、連帯保証人の経営者に対しては大株主もひるむので、ある意味では大株主に対して強くものが言えるだけの力を得られるといった、実態を知っているからこそ指摘できる個人保証や連帯保証人の企業側メリットも参考になる。

(東京大学大学院)

教授 柳川範之